

OKAYAMA PLAY PARK

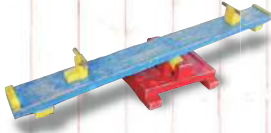


おかやまプレーパーク のこころ

実践紹介

ESD…持続可能な子どものための遊び場づくり

2014年、岡山市において、国連が定めた「ESDの10年」の最終年会合が開催されます。誰もが安心して暮らせる社会づくりを目指す活動を（Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育）というキーワードで総括する国際会議が、岡山市で行われるのです。このプレーパークづくりは、子どもの遊び場づくりを通じた地域づくりでもあります。子どもから大人まで幅広い年代の人が集い、交流するコミュニケーションの場でもあります。人は、遊ぶことで刺激され、豊かさを感じ、そうした人の集まりが地域をより魅力的に活性化させるのです。まさに子どもの遊び場づくりは、国連の推奨するESDの実践例であると言えます。



写真は定期的(1回/月)に開催されているイベント。対象は、0〜3歳までの子どもとその親。絵本の読み聞かせを楽しんだり、自然に触れたりしながら、外遊びの楽しさを体験することができます。

岡山市内で子どもの遊び場「プレーパーク」づくりがはじまったのは、2002年3月のことでした。旧出石小学校の校庭を借りて、全身を使っての外遊び、廃材での工作やドラム缶を利用した火など、いつもの公園ではなかなか出来ない体験を重ねました。最初は、年に2日間の開催でした。子どもたちは教えてくれます。子どもにとっての遊びは、毎日の暮らしそのもの。子どもの遊びには、暮らしの中での喜怒哀楽がつまっていることを。時に危ない挑戦をしたり、静かに語ったり。少しずつ歩んだ取り組みは、2008年からは、学南町の国際児童年記念公園「こども森」の一面を岡山市から借りて、「おかやまプレーパーク」として年に約240日を開催するようになりました。市民による非営利の取り組みとしては、国内でもめずらしい実践と言えます。多くの市民ボランティアの参加をはじめ、子どもが外で遊ぶことを、あたたかく見守ってくれる地域のみなさんのおかげです。



現在、年間に約2万人を超える人たちが遊び場を利用しています。取り組みを持続させていく上では大きな課題もあります。

子どもが地域でこれまで以上に安心しておもいっきり遊べる環境づくりや、その環境づくりを応援する人たちを増やしていくことは、未来の岡山づくりであり、岡山市や県などの行政、企業、NPOだけでなく、地域に暮らす市民の総合的な連携が不可欠です。

岡山市においても、持続可能な子どもたちのための遊び場づくりがはじまっています。



CHILDREN'S

WOODS

